



I.B.MUSEUM SaaS リニューアル情報 EXPRESS

発行元:早稲田システム開発株式会社 東京都新宿区高田馬場4-40-17 tel.03-6457-8585

✉ mapps@waseda.co.jp 🏠 www.waseda.co.jp/

Vol.6 2022.07.15 今回のテーマ | 人物・名簿とメディア

今回の内容

日頃は「I.B.MUSEUM SaaS」をご利用いただき、誠にありがとうございます。冬の最も寒い時期に第1号を発行した「リニューアル情報 EXPRESS」ですが、早くも折り返し地点を迎えました。

第6号となる今回は、「人物・名簿」と「メディア」というテーマでリニューアル情報をお届けいたします。ともに使いこなせば收藏品データベースをワンランク引き上げる機能ですが、これらの単語だけでは少し分かりにくいかもしれません。

人物・名簿は、「人物マスタ」という標準データを作って、必要な部分に反映できる機能です。美術作品の作家を登録する際に名前を手動で入力すると、漢字の旧字体・新字体やミドルネームの扱いなど表記上の「揺れ」が生じやすくなり、作家名からの検索の質が大きく低下します。これを防ぐために、日々の運用の中でルールを更新しながら管理するわけです。

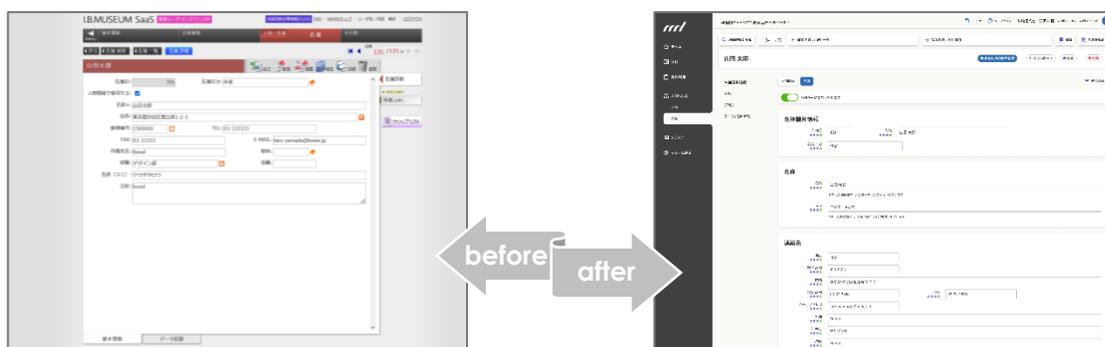
メディアは、平たく言えば従来の「画像」です。これまでは写真が大半でしたが、最近は別のフォーマットのデータを扱う機会も増えてきましたので、対応が必要になってきました。

いずれも重要な機能ですので、今回のリニューアルではより直感的に扱えるよう操作性を大きく改善しています。そんなわけで、さっそく次ページから詳しいご説明へと進むことにいたしましょう。

I.B.MUSEUM SaaSリニューアル情報 EXPRESS 発行予定

Vol.1	2022/1/31	リニューアル計画概要とログイン画面
Vol.2	2022/2/28	デザインコンセプトとホーム画面
Vol.3	2022/3/31	検索トップと検索結果一覧
Vol.4	2022/4/30	詳細画面の特徴
Vol.5	2022/5/31	データ登録方法とクリップリスト
Vol.6	2022/7/15	人物・名簿とメディア Now!
Vol.7	2022/8/31	資料利用
Vol.8	2022/9/30	公開設定
Vol.9	2022/10/31	項目設定
Vol.10	2022/11/30	ユーザ管理・一括処理
Vol.11	2022/12/31	帳票設定
Vol.12	2023/1/31	移行方法と並行運用について
Vol.13	2023/2/28	総集編 (Vol.1からVol.12までを1冊に)

※Vol.6(今回)の発行日を当初予定から半月、Vol.7(次回)の発行を1か月延期いたしました。



各部の名称



「リニューアルEXPRESS Vol.6」では、画面の各部を以下のように呼びます。

- ① 上部バー
- ② グローバルナビゲーション
- ③ タイトルエリア
- ④ サイドバー
- ⑤ メインエリア (検索結果)
- ⑥ トグルボタン(※)



※ トグルボタンとは、クリック／タップで「開く・閉じる」「オン・オフ」を切り替えるスイッチを指します。

リニューアル情報⑩ 人物情報・名簿

現行仕様のメリットを残して交通整理。仕様がよく見えるインターフェイスに。

● 現行デザインの仕様

I.B.MUSEUM SaaSでは、人に関するデータを「人物」情報と「名簿」情報として管理することができます。後者は読んで字の如く名簿データですが、前者は作家や歴史的人物として略歴や解説などさまざまな情報を登録・管理することができます。

たとえば、現在も活動中の現役作家なら、連絡先などの個人情報とは別の意味の人物情報、即ちプロフィールなどの公式情報も必要となるはずです。そこで、人物情報を別途登録できるよう設定することで、名簿データとは用途が異なる作家としての多様な情報を管理することが可能となります。

さて、名簿データと人物データの両方が登録されている場合、後者から開いた時に表示される作家情報は、前者から開くと表示されません。これは、「名簿側から入るのは個人情報を扱う時」という業務シーンに即しているためです。



● 現行仕様の問題点

このように、同一人物に対して異なる用途を想定したデータが共存している点はよいのですが、問題は検索時の振る舞いです。

たとえば、作家の連絡先を調べるために名簿情報を検索する際には、人物情報としてしか登録されていない(名簿情報が存在しない)はずのデータも検索対象となります。これにより柔軟な検索が可能となるのですが、キーワードの設定次第では不都合が生じることがあります。連絡先の検索なのに、登録されているわけがない「歌川広重」といった物故作家や歴史上の人物のデータまでヒットしてしまうこともあります。

人物情報と名簿情報のデータについて、現在の仕様は境界がやや曖昧で、使い方によってはむしろ扱い方を難しくしていることは否めません。この点については、弊社内でもこれまで長く議論がありました。名簿情報と人物情報の両方を扱えるのは使いやすいけれど、現行画面では上記の通り、仕様の意図とルールを理解していなければ操作にややクセを感じるかも知れません。そこで、今回のリニューアルでは、これらの交通整理を行うことになりました。

No.	名簿ID	名簿区分	名前	郵便番号	住所
41	41	作家	月岡万年		
42	42	作家	伊藤石冲		
43	43	作家	曾我蕭白		
44	44	作家	山田太郎		
45	45	その他	早稲田三郎	1610033	東京都新宿区下落合
46	46	美術館	東京国立近代美術館		
47	47	美術館	国立新美術館		
48	48	美術館	国立映画アーカイブ		
49	49	美術館	国立国際美術館		
50	50	博物館	東京国立博物館		
51	51	美術館	京都国立近代美術館		
52	52	博物館	九州国立博物館		
53	53	博物館	京都国立博物館		

物故作家

現役作家

他館

● 新インターフェイスのポイント

こうした背景から、新しいインターフェイスでは人物情報と名簿情報という「ふたつの入り口」を維持しつつ、検索を行う際も違和感が生じにくい操作環境づくりを重視しました。

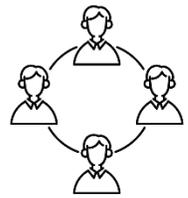
まず、グローバルナビゲーションにある「人物」「名簿」メニューのどちらかをクリック／タップすると、下の一覧画面が表示されます。たとえば、人物メニューで表示した一覧画面から検索を行う際は、人物情報のデータ、または人物情報も登録されている名簿データ（のうち「人物情報として使う」ことが設定されているもの）だけが検索対象に。これは、名簿側から検索する際も同様です。

感覚的には、選んだメニューの情報に絞って検索するような形となります。これにより、前述のように、連絡先（名簿情報）のデータがないはずの「歌川広重」がヒットしてしまうのを避けることができるのです。

人物・名簿の検索は入り口と中身を一致させ、資料と同等の機能を搭載。

このように、今回のリニューアルでは「入り口の選択」がより大きな意味を持つことになります。「選んでいないメニュー側の情報は原則として対象外」とすることで、検索の意図と結果が一致する使い勝手となるわけです。

なお、画面左に並ぶファセットは、資料情報と同様にリニューアル後に実装予定。もちろん、クリップリストなどの機能も搭載されます。



【人物・名簿一覧画面】

名簿区分	名前	郵便番号	住所	登録日	最終更新
美術館・博物館	早稲田太郎記念館	169-0075	東京都新宿区高田馬場4丁目40-17	2018-08-25	2020-12-12
美術館・博物館	早稲田芸術文化センター	169-0075	東京都新宿区高田馬場4丁目40-17	2018-08-25	2020-12-12
美術館・博物館	早稲田歴史民俗資料館	169-0075	東京都新宿区高田馬場4丁目40-17	2018-08-25	2020-12-12
美術館・博物館	四谷特別出張所	100-1234	新宿区内藤町87番地 四谷区民センター2階	2018-08-25	2020-12-12

「名簿」と「人物」の複雑な関係をより分かりやすくするインターフェイスへ。

「名簿」を開いて検索し、検索結果からひとつを選ぶと、名簿詳細画面が表示されます。当然、名簿情報として使用するデータ項目が表示されることとなりますが、ここでの画面も現行デザインから一新され、より使いやすくなります。

まず、画面上部に「人物情報」「名簿」のボタンが並んでいます。ここでは「名簿」から入りましたので、そちらに色がついています。たとえば、この画面内で名簿情報としてデータに編集を加えていると、ふと「人物」側のデータを確認したくなることもあるでしょう。そんな時は、上部

のボタンで「人物情報」をクリック／タップすると、画面表示がすぐに切り替わります。

また、名簿情報の検索中に、ヒットしないはずの物故作家の情報が表示されたとします。上記の通り、名簿情報が無効であれば仕様上ヒットしませんので、もし表示されたなら、それは誤って名簿情報が有効になっていることを意味します。

こうした場合は、名簿側の詳細画面で、名簿情報として使うためのトグルボタンがオンになっているはず。これをオフに切り替えれば、以降そのデータは入力内容に関係なく名簿情報としては扱われなくなり、検索対象からも除外されます。

【人物・名簿詳細画面】

①「山田太郎」の「名簿」情報を開いている様子です。②のトグルボタンは、③の詳細情報欄の有効・無効を切り替えるスイッチです。有効になっていると各項目の登録・編集が可能になると同時に、検索対象にも含まれるようになります。ここで①の「人物情報」ボタンをクリック/タップすると、名簿情報を表示している③の欄が人物情報用の内容へと切り替わります。

①のデータを「人物情報」に切り替えました。現在は、「山田太郎」のデータを人物情報として使う予定がないので、トグルボタンはオフになっています。したがって、人物情報の画面を開いても、何もありません（登録済みのデータは保持され、トグルボタンをオンに切り替えれば表示されます）。

②のトグルボタンをオンに切り替えました。これで、名簿情報しか表示されていなかった「山田太郎」に、管理用の人物IDをはじめとする人物情報のデータを登録・編集できるようになりました。

「利用者」という区分は廃止し、 「名簿」に統合します。

現行の仕様では、「名簿」「人物」に加えて「利用者」という区分があります。これは所蔵する図書を館外に貸し出す時のためのもので、いわば名簿情報の簡易版。「図書室から書籍を借りる人の管理」に特化したデータとなっています。

しかしながら、名簿情報の中でも十分に運用可能であることから、今回のリニューアルでは正式に「名簿」に統合します。原則として既存機能をすべて引き継ぎリニューアルですが、一部ユーザを想定とした特殊機能ということで、特例的に統一することとなりました。もし不都合が生じる場合はご一報ください。

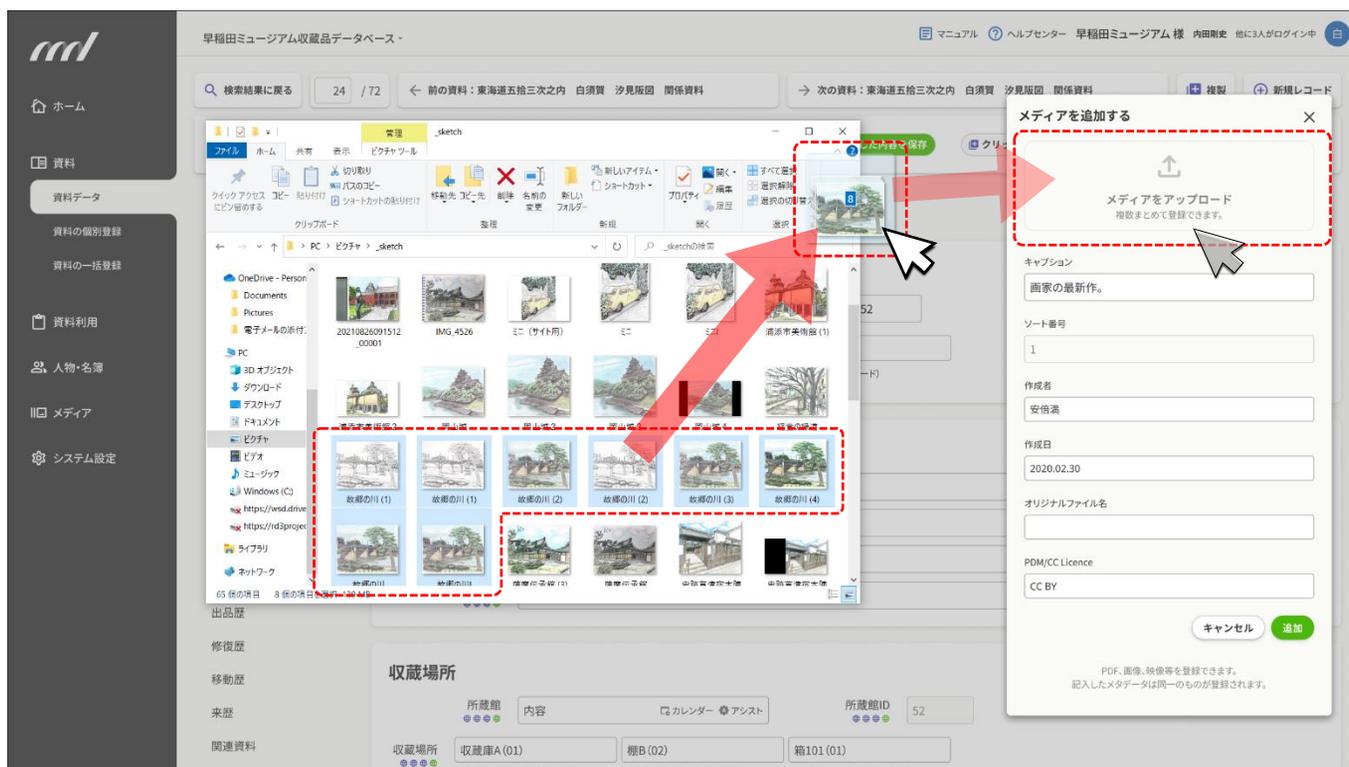
リニュアル情報⑩ メディア

多彩なメディアが登録できる機能に合わせ、 「画像」から「メディア」に呼称を変更。

I.B.MUSEUM SaaSのサービスを開始した2010年当時は、資料情報に紐付く関連データと言えば、ほぼ静止画像を指しました。当時は、ほかのメディアの活用頻度がまだまだ低かったため、分かりやすく「画像」としました。

その後の機能追加で、3DオブジェクトやYouTube動画、PDFファイルなど、画像以外のデータも登録できるようになりました。そこで、今回のリニューアルにおいては、より多様なフォーマットのファイルを扱うことを前提に、「画像」を「メディア」に変更します。呼び方の変更に加えて画面デザインの刷新と若干の機能追加がありますが、基本的な機能は現行仕様から大きな変化はありません。もちろん画像もこれまで通り扱えますので、どうぞご安心ください。

【複数メディアを同時に一つの資料に登録する操作】



ひとつの資料データに複数の「メディア」を まとめてドラッグ&ドロップ

現行システムでの画像データの登録は、ファイルを指定して実行するか、ドラッグ&ドロップで行います。画像をまとめて登録する「画像照合アップロード」機能も用意されていますが、実作業では「その

画像は、どの資料に関連するデータか」についての紐付けと確認が不可欠となるため、残念ながら、総作業時間としては劇的な時短化は困難となります。

そこで、ひとつの資料に複数画像がある場合については、複数の画像をまとめてドラッグ&ドロップすることが可能に。これで、一括登録もかなり時間を短縮できるようになります。

デジタルアーカイブの潮流に合わせ、 「画像から先」の登録を可能に。

現行システムでの画像登録は写真単独でも可能ですが、あくまで資料データ(メタデータ)が存在することが前提となります。資料ページに画像データを追加するという考え方は、「まず紙の資料カードがある」「そこに紙焼きの写真を糊付けする」という昔ながらの業務フローを強く意識したものです。

しかし、スマートフォンで簡単に写真を撮れる現代では、資料データよりも画像データの方が先に整うこともあるでしょう。

現行画面ではメニューから開いていたメディア（画像）も、左のナビゲーションボタンからスピーディにアクセスすることができます。

そこで、今回のリニューアルでは、紐付く資料情報の有無にかかわらず、画像(メディア)ファイルのみを先行してシステムにアップロードすることができるように変更します。

登録したメディアは検索にヒットしますので、資料情報の入力を行った後、改めて互いを紐付けことが可能です。すでに登録済みの名簿データから人物情報を作るのと同様に、進めやすいフローで登録作業を円滑に進めることができます。



【メディア一覧画面】

① 現行デザインでは、その画像が資料に紐付いているか、画像単独かをチェックボックスで選びます。新デザインでも考え方は同じですが、ファセットからダイレクトに選ぶことが可能に。また、資料情報や人物・名簿情報と同様に、クリップリストも表示されます。

② メインエリアでは、メディアのサムネイルが一覧表示されます。

【メディア一覧画面】

早稲田ミュージアム収蔵品データベース

検索

キーワード検索

検索

メディア種類

- 画像 127
- PDF 36
- 3D 254
- 動画 12

ウェブ公開状況

- 公開 512
- 未公開 727

資料へのリンク

- あり 512
- なし 727

クリップリスト

- 個人用
 - R5年度定期チェック 11
 - 宛送届入替候補 36
 - 企画展候補 124
- 共有
 - R3年度企画展候補 103
 - R3年度購入 3

R5年度定期チェック 個人用 命

123456件の検索結果 選択中 0件 除外 抽出 ダウンロード 印刷

61件目~80件目 4 / 72

87/東海道五拾三次之内 岡崎 矢野之橋 2017年3月21日追加

88/東海道五拾三次之内 庄野 白雨 2017年3月21日追加

89/東海道五拾三次之内 石薬師 石薬師寺 2017年3月21日追加

90/東海道五拾三次之内 四日市 三重川 2017年3月21日追加

91/東海道五拾三次之内 桑名 七重渡口 2017年3月21日追加

92/東海道五拾三次之内 鳴海 名物有松絞 2017年3月21日追加

93/東海道五拾三次之内 池鯉鮒 首夏馬市 2017年3月21日追加

94/東海道五拾三次之内 赤坂 2017年3月21日追加

1 2

【メディア詳細画面】

早稲田ミュージアム収蔵品データベース

メディア一覧 > DSC_1234.JPG

メディア一覧に戻る 24 / 123,456

前の資料: 87/東海道五拾三次之内 岡崎 矢野之橋

次の資料: 89/東海道五拾三次之内 石薬師 石薬師寺

写真を追加

88/東海道五拾三次之内 庄野 白雨 DSC_1234.JPG

更新した内容を保存 複製 ダウンロード 印刷

メタデータ

参照されている資料

クリップリスト

メタデータ

キャプション: 東海道五拾三次之内 庄野 白雨

クレジット表記

作成者: 野川 濤

作成日: 2017年3月21日

参照されている資料

1件目~10件目 1 / 72

123456件の検索結果 選択中 0件 全件 ダウンロード 印刷

123 東海道五拾三次之内 庄野 白雨 参照先での表示順 01 参照先での代表画像指定 ON

クリップリスト

全項目 個人用 共有

2件

件名	登録日	最終更新	共有	操作
1 早稲田画廊(購入)	1件 作成者名	2018-08-25 2020-12-12	個人	追加済み
2 早稲田画廊(購入)	80件 作成者名	2018-08-25 2020-12-12	個人	追加済み

1 2 3 4 5

メディア詳細画面の全体の構成は、 資料や人物・名簿の詳細画面と共通のものに。

- ① サイドバーは表示エリアへのアンカーの役割を果たします。
- ② メインエリア内のレイアウトも資料と同じ基準で構成されます。
- ③ メディアを管理する画面なので、現行デザインと同様に、サムネイル画像は大きめに表示。画面内では、画像の拡大や回転も可能です。
- ④ このメディアが紐付けられている資料(作品)の情報は、現行デザインでは右タブで専用画面に遷移する必要がありましたが、新デザインでは画面下に直接表示されます。

- ⑤ このメディアが含まれているクリップリストも、資料や人物・名簿と同様に同じ画面内に。



今回のまとめと次号のお知らせ

ここまでお読みいただき、誠にありがとうございました。

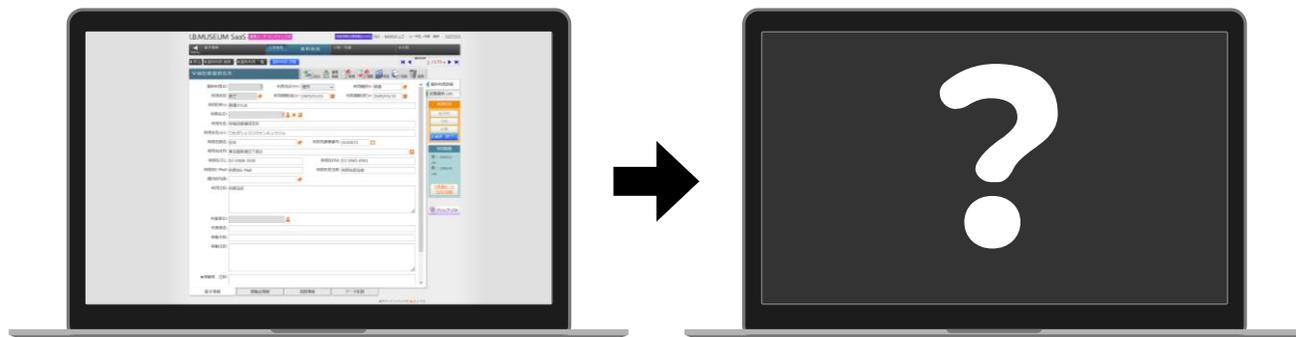
少し専門的な話となりますが、I.B.MUSEUM SaaS は、いわゆる「リレーショナルデータベース」に該当します。事前に定義された行と列によって構成される複数の表＝テーブルから成るデータ群を、互いに関連付けながら管理するツールと言えば分かりやすいでしょうか。

今回ご説明いたしました「人物・名簿」「メディア」の各機能は、いずれも資料から紐づく周辺情報となります。構図としてはミュージアムの成り立ちとほぼ同様で、まず資料が中心にあり、それに関連するさまざまな情報が外側に集積されていて、互いに絡み合うようになっていきます。この作品の作家は誰で、その作家はこんな人で、制作した作品はこれとこれで…という具合に、各情報が立体的・複層的に折り重なっていくわけです。

こうして出来上がる複雑怪奇を極めた情報の海は、Microsoft Excelのシート一枚に収まるものではありません。そこで、リレーショナルデータベースの出番となるわけです。

今回のリニューアルは、データベース内で管理する情報群の関係性は維持しつつ、より分かりやすく、より扱いやすく、より探しやすいインターフェイスを追求するためのものです。ここまでお伝えしてきました通り、実作業と並行して今も細かく改善を加えているため、社内でも議論が続くテーマのひとつである「人物情報」を扱った今回の『リニューアル情報Express』は予定より半月遅れての発行となりました。まずは慎んでお詫びを申し上げます。

さて、次回は「資料利用」を予定しております。こちらもリニューアル効果の大きい機能ですが、人物・名簿と同様に難関となることから、現在、細部の詰め真っ最中。そこで、やはり半月間のゆとりを持たせ、次号は当初予定の1か月遅れでの発行とさせていただきます。大変恐縮ですが、しばらくお待ちくださいませ。どうぞお楽しみに！



- ※ 掲載スケジュールは、すべて発行時点での予定です。開発の状況により変更となることがございます。
- ※ 掲載のリニューアル画面は開発中のものです。